

# 『おおきな木（通級指導教室）』だより



豊中市立大池小学校 R4（2022）12・9 No.3

## “聞く”と“聴く”と“訊く”

——「よく聞きなさい」という前に——



昨年度は、「見る」についてお話ししました。今回は「聞く」についてです。

「話を聞く」ことが大事ということ子ども達はみんな知っています。ところが、先生は言っているのに「聞いてない」という事態がしばしば起こります。

小学生の場合、始めから“聞く気がない”とそっぽ向いていることはまずありません。ではなぜでしょう。

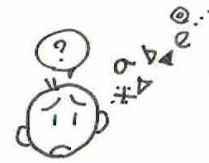
### ① 『聞いていることが記憶に収まりきらない』

⇒あふれた情報が「聞いていない」ことになります。3つのことを聞いて2つ記憶に残っているような場合です。ワーキングメモリーが不足していると言われたりもします。



### ② 『聞いているが言葉が理解できていない』

⇒話している方は「わかっている」と思って話していても、かなり違う聞き方をしていることがあります。単語の意味を取り違えていたり、状況そのものがつかめていなかったりするので、「わからなかったら先生に質問しなさい」と言われても本人はわかったつもりでいる場合がよくあります。



### ③ 『聞いているつもりがいつのまにか注意が他にそれている』

⇒教室で前を向いてしっかり“聞いて”いるのですが、わざとではなく他のことに意識がそれてしまうことがあります。



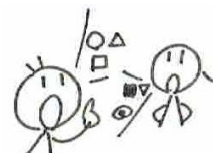
では、どうしたらいいでしょうか。

- ① 話す（伝える）側の「圧」が強すぎると、聞く側の意識に入っていくにくいのではないかと感じます。それほど大きくない容器に蛇口全開で水を入れているようすです。はね返って容器の中に水はあまりはいっていません。ポイントは、大事なことほど、いつもより小さめの声でいつもよりゆっくりめに伝

える。言葉を絞って言葉の数を少なくする・・・です。  
とかく大人は言葉が多い（ひと言どころか三言五言と・・・）の  
ではないかと、自分を振り返っても反省することが多いです。



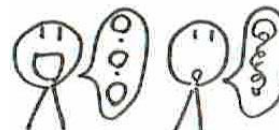
- ② 伝わっていると思うことでも「訊ねてみる」「わかったことを話してもらおう」と子ども  
の理解や気持ちがわかります。そのとき、『聞いているかテスト』みたいな感じ  
になると子どもは「わかってるって!」となりますので、思い違い  
(世代間ギャップ?)があればそれを楽しむくらいの気持ちの余  
裕で訊ねてみてください。



- ③ 日本語は「あ、い、う・・・」という一音一音でできています。1年生の1学期に  
「あ・ひ・る」と手を叩きながら口で言うのは音韻分解といい、音韻認識をしっか  
りさせるために大切な学習です。1年生くらいの子がダジャレにもならないよう  
な「1音ちがい」の言葉を見つけて喜ぶのは実はとても大事な発見です。「しり  
とり」や「言葉のなぞなぞ」もいい学習です。

ところが、高学年くらいになると急に“すべるような”話し方になる子が少なくあ  
りません。口をあまり開けず(マスク生活でますます!)、音がつながり(フランス  
語みたいに)、結果として“言葉⇔内容”のつながりが薄くなって集中力が薄く  
なっているのではないかと感じます。

最近外国語の得意な人も増え、若いみなさんもますます“早口”でカッコよく  
話しますが、大人が日本語の音韻や言葉を大切にしていねいに話したいものです。



「しっかり聞きなさい」ということは大事ですが、

耳で「聞く」⇔脳で「聞く」⇔心で「聴く」

そして大人は子どもに対して常に「訊く」気持ちを持ち続けたいと考えています。

参考文献: イーラボ発達支援テキスト1、2『聞くカトレーニングブック』

<この『おおきな木(通級指導教室)』だよりは大池小学校 HP にも掲載しています>

来週から個人懇談が始まります。

『おおきな木』だよりに関することや、学習・生活のこと、通級「おおきな木」へのご質問、  
見学希望等がありましたら、まず担任の先生にお話をしてください。

(豊中市立大池小学校 通級指導教室担当: 藤木桂子)